

受講者 10 名以上における木材加工法の授業評価

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観および状況

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，木材に関する基礎知識と加工するための種々の方法などの教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。これまでこの科目で受講生数は 1 桁であり，今回のように 13 名の受講生は初めてである。小人数用に内容を構成しているため，受講生がどのような評価を行ったのかについて報告する。

2. 授業評価方法

評価はディプロマ・ポリシー（以下 DP）による授業評価および科目独自のアンケートを使用した。受講人数は 13 名（技術専修 9 名，他コース 4 名）である。受講生の内訳は 1 回生 7 名，2 回生 2 名，3 回生 2 名，4 回生 1 名，科目等履修生 1 名である。科目独自のアンケート質問内容を表 1 に示す。

表1 アンケート質問内容

設問番号	設問内容
(1)	教員の話し方や説明により，授業内容（概念，理論など）が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。(5段階評価)
(3)	木材の組織構造について新たな知識を身につけることができましたか？
(4)	木材の物理的性質と機械的性質の知識を身につけることができましたか？
(5)	木工具の種類やその機能について知識を身につけることができましたか？
(6)	木工機械の種類やその機能について知識を身につけることができましたか？
(7)	木材・木材加工に対して興味・関心がわきましたか？
(8)	実際に木材を加工して製品を作製してみたいと思いますか？

3. 授業評価結果

DP のアンケート結果を図 1 に示す。回答

人数は 12 名である。すべての DP の平均は 2.90 であった。

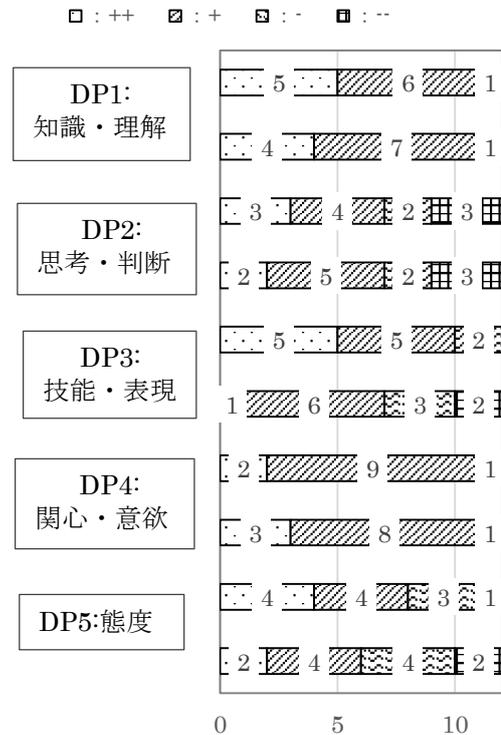


図1 DP についての回答結果

DP1:知識・理解について，1 A 教育に関する知識の修得および 1 B 得意分野の専門的知識の修得の両方について 1 名を除き肯定的に回答している。この教科の学習目的でもあるので，授業者としては目標達成ができていると考える。

DP2:思考・判断について，2A 教育をめぐる現代的諸課題の理解および 2B それへの適切な対応策のあり方についての思考力・判断力の修得については 5 名の学生が否定的に回答した。教員側はそれほどこの項目には意識をしていなかったため，7 名の学生が肯定的に評価したことは本授業の副産物である。

DP3:技能・表現について，3A 教育活動に必要な高い技術の修得および 3B 教育活動に

必要な豊かな表現力の修得に関して、5名の学生が否定的に回答した。

DP4:関心・意欲について、4A 自己の学習課題の明確化および 4B 理論と実践を結び付けた自主的な学習への意欲喚起については、1名の学生を除き肯定的であることがわかる。ここも本学習の目標であり、授業者としては目標達成ができていていると考える。

DP5:態度について 5A 専門的職業人としての使命感や責任感の形成、5B 多世代にわたる対人関係力の育成について、DP3 の評価と同様に授業内容の一部に使命感や多世代にわたる対人関係力に関わるものがあったが、学生がそれに関して評価したことはよかった。

つぎに、科目独自アンケートの回答結果を図2に示す

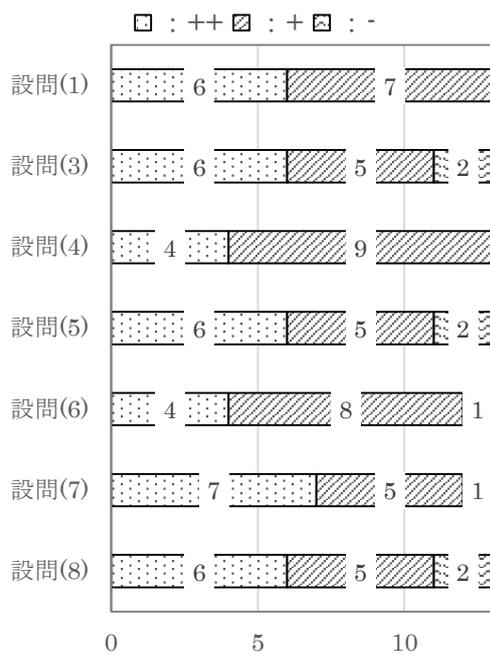


図2 科目独自アンケート結果

どの項目についてほぼ肯定的な回答を得た。設問(2)の難易度については「やややさしい」が2名、「適切」が4名、「やや難しい」が7名であった。設問(3)から(6)は授業内容の理解度についての回答である。木材の組織構造と木材の工具について少し難しかったこともあり、否定的な意見が2名いた。設問(7)はDP4

と重なるものであるが、同じような結果となった。設問(8)は、木材加工演習を受講する希望があるのかどうかを問うたものである。11名の学生が前向きな姿勢を見せている。

評価は中間試験と期末試験で評価した。内訳は秀:1名, 優:3名, 良:6名, 可:3名であった。期末試験は事前に8つのチェック項目をあげ、学習しておくように指示をしていたが、期待通りにはいかなかった。特に1回生の成績(優:1, 良:3, 可:3)は良くなかった。技術の教科専門の科目で取り付きやすいであろうということで、1回生からの受講に設定しているのであるが、やはり、学生の専門教科への取り組み方は非常に良くない。まだ、技術の専門教科への本気の度合いが低いと考える。

今年度の1回生は技術教育専修を第一志望で所属した学生は一人もいないということ、専修振り分け後、すでに4名の学生が転専修を希望していること、1名は現時点で教員を志望していないことなど、最初から授業態度が空言のような感じである。受講することで興味・関心は高まるようであるが、知識・理解の習得にはいたっていない。1回生のうちから教員への志を持たせるように工夫が必要である。

おわりに

技術分野の科目に対して興味・関心は高まるので、知識・理解の習得に結び付けるように改善を行わなければいけない。また、この興味・関心の高まりを有効に生かし、他の技術の専門科目へ注目させるようにしなければならない。

2年後のことではあるが、平成28年度より中等教育コースが設置され、技術教育を希望する学生を入学させることが可能となる。技術志望という意識の高さが、授業科目への取り組みやDPによる評価に影響があることを期待したい。